

鐵道安全報告書

2022 年



嵯峨野觀光鐵道株式會社

鉄道安全報告書（2022年）

I. ごあいさつ

II. 安全に関する基本方針

III. 安全管理体制

IV. 事故等の発生状況

V. 安全確保に向けた昨年度の取組み

VI. 今後の安全確保に向けた取組み

VII. お客様へのお願い

VIII. 安全報告書等に対するご意見について

I. ごあいさつ

平素は、弊社の鉄道事業に対しまして、ひとかたならぬご理解とご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

弊社は1991年4月、京都の地で嵯峨嵐山から亀岡までの保津川沿線の景勝地を結ぶ観光鉄道として事業をスタートし、これまで国内外からの多くのお客様や地域の皆様に支えられ、昨年には開業30年を迎えることができました。

この間、お客様の「安全・安心」を第一と考え、リスク管理の強化、ホーム上の安全性向上、自然災害への対処、社員の異常時対応能力向上に取り組むなど一人ひとりの地道な努力の積み重ね、リスクアセスメントによるハード・ソフト対策などにより「お客様に死傷を及ぼす運転関係事故」及び「死亡や後遺症が残る重大労災」について「ゼロ」を継続してまいりました。

2022年度は「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022」の最終年度です。「お客様に死傷を及ぼす運転関係事故ゼロ」をはじめとする目標が継続できる体制構築に向けて、「組織で安全管理する体制の強化」、「自分ゴト化、みんなゴト化による安全意識、安全への取り組みの強化」、「安全への設備投資、修繕費投入」を安全の三本柱とし、全員参加型の安全管理を進め、グループ会社及び協力会社と連携して、より効果的なハード・ソフト対策に結び付けてまいります。

2021年度は、水害により7件の輸送障害が発生しましたが、2014年度より斜面防災対策として取り組んできた沿線土木設備強化の効果もあり、最小限の影響にとどめることが出来ました。

斜面防災対策につきましては最重要課題であると認識し、今後も取り組みを進めてまいります。

新型コロナウイルスへの対応につきましては、「鉄軌道事業における新型コロナウイルス感染症対策に関するガイドライン」に基づき、お客様への感染拡大防止を図り、安心してご利用いただけるよう、車両への抗ウイルス・抗菌加工、駅設備の定期的な消毒、消毒液の設置、車両や駅舎の窓開けによる換気、駅窓口へのビニールカーテンの設置、お客様へのマスク着用の呼びかけなどの対策を行ってまいりました。

引き続き、ガイドラインを踏まえ、お客様だけでなく社員の感染拡大防止にも取り組んでまいります。

今後も一層の安全性向上に向けた取り組みが必要と考えており、お客様に安心信頼してご利用いただけるよう、安全確保を最優先課題として、ハード・ソフト両面からの対策に万全を期してまいります。

本報告書をご高覧いただき、ご意見をいただければ幸甚です。

2022年9月

嵯峨野観光鉄道株式会社 代表取締役社長 井上 敬章

Ⅱ. 安全に関する基本方針

当社の安全に関する基本的な方針として、「企業理念」の第一項に「私たちは、安全第一を積み重ね、お客様から安心、信頼していただける観光鉄道を築き上げます。」と定め、その理念を具現化するための日々の行動指針として「安全憲章」を制定しています。

なお、この「安全憲章」につきましては、JR西日本グループの一員として安全に係る基本的価値観を共有し、「安全を最優先する企業となる」「重大な事故を発生させない」という決意のもと、2021年4月に従来の「安全憲章」「行動規範」をあわせて見直しを行い、新たな行動指針として制定したものです。

安全憲章

私たちは、JR西日本グループの一員として、2005年4月25日に発生した列車事故を決して忘れず、お客様のかけがえのない尊い命をお預かりしている責任を自覚し、安全の確保こそ最大の使命であるとの決意のもと、安全憲章を定めます。

1. 安全の確保は、規程の理解と遵守、執務の厳正および技術・技能の向上にはじまり、不断の努力によって築きあげられる。
2. 安全の確保に最も大切な行動は、基本動作の実行、確認の励行および連絡の徹底である。
3. 安全の確保のためには、組織や職責をこえて一致協力しなければならない。
4. 判断に迷ったときは、最も安全と認められる行動をとらなければならない。
5. 事故や災害が発生した場合には、併発事故の阻止とお客様の救護がすべてに優先する。

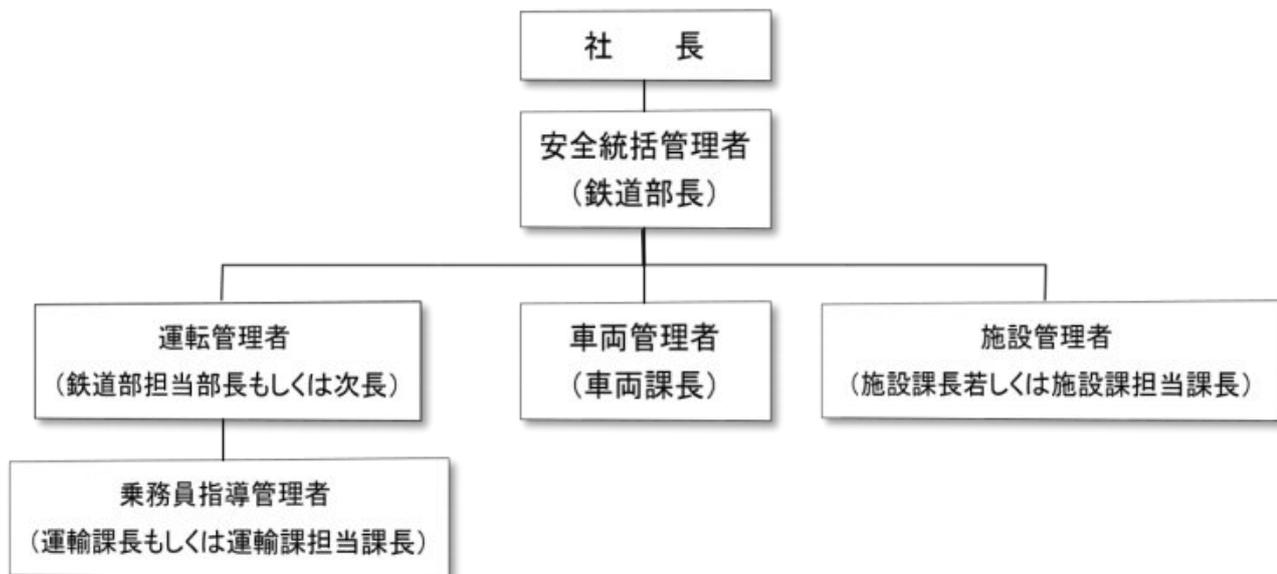


嵯峨野観光鉄道株式会社

Ⅲ. 安全管理体制

当社では、2006年10月1日に制定した「安全管理規程」において「輸送の安全を確保するための基本的な方針」、「輸送の安全の確保に関する事業の実施及び管理の方法」等を定め、安全管理体制を明確にするとともに、具体的かつ様々な取組みを積み重ね、事故防止に取り組んでいます。

【安全管理体制】



【役職及び役割】

役 職	役 割
社 長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する
運転管理者	安全統括管理者の指導の下、運転に関する事項を統括する
乗務員指導管理者	運転管理者の指導の下、乗務員の資質の維持に関する事項を統括する
車両管理者	安全統括管理者の指導の下、車両に関する事項を統括する
施設管理者	安全統括管理者の指導の下、施設に関する事項を統括する

IV. 事故等の発生状況

1. 鉄道運転事故(省令に定められた列車衝突事故などの事故)
昨年度は、鉄道運転事故は発生しませんでした。今後とも安全輸送に努めてまいります。
2. 輸送障害(列車に運休または30分以上の遅延が発生したもの)
昨年度は、輸送障害が8件発生しました。主な事象につきましては、以下の通りです。
ご利用のお客様には、大変ご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。
 - (1) 2021年4月17日(土)
急激な豪雨により雨量が規制値に達することが見込まれたため、第119列車及び第120列車を運転休止とし、線路点検を実施しました。点検の結果、安全が確認できたことから、第121列車より運転を再開しました。(運休2本)
 - (2) 2021年5月21日(土)
前日からの降雨により雨量が規制値に達したことから、線路点検を実施した結果、擁壁内の排水処置が必要な箇所が認められたため、始発列車である第111列車から第116列車及び第9127列車、第9128列車を運転休止し処置を行いました。(運休8本)
 - (3) 2021年8月14日(土)
雨量が規制値に達することが見込まれたため、第119列車をトロッコ嵯峨駅で抑止しました。その後も降雨が続く予報であったため、第119列車以降の全列車を運転休止としました。(運休10本)
 - (4) 2021年8月17日(火)
雨量が規制値に達することが見込まれたため、第121列車から第124列車を運転休止とし、線路点検を実施しました。点検の結果、安全が確認できたことから、第125列車より運転を再開しました。(運休4本)

昨年度は水害による輸送障害が7件しました。斜面防災対策につきましては、最重要課題と認識し、引き続き取組みを進めてまいります。
今後も安全安定輸送の確立に向け、対策を講じてまいります。
3. インシデント(事故の予兆)
昨年度は、国土交通省へのインシデント報告に係る事故等は発生しませんでした。
4. 行政指導等
昨年度は、国土交通省の行政指導等は、ありませんでした。

V. 安全確保に向けた昨年度の取組み

昨年度は、以下の取組みを行いました。

1. ハード対策

(1) 施設関係

① 軌道の強化

軌道強化を目的に一部の木マクラギをコンクリートマクラギへ交換しました。



【トロッコ保津峡・トロッコ亀岡駅間】

② 落石防護ネットの新設

斜面への落石防護ネットの増設を行いました。



【トロッコ保津峡・トロッコ亀岡駅間】

③ 樹木の管理

倒木の恐れのある木（朽木や大きく傾いた木など）をあらかじめ調査し、計画的に伐木しました。また、列車に接触する恐れのある枝についても、同様に伐採しました。



【列車に接触する恐れのある枝を伐採】

④ 高所作業での安全対策

高所作業となる橋りょう点検の安全対策として、点検足場を新設しました。また、橋りょう上での作業においては、安全带（フルハーネス）をレールへ固定し転落防止対策を行っています。



【橋りょうの点検足場新設】



【安全带を装着しての点検作業】

2. ソフト対策

(1) 異常時対応訓練の実施(2022年2月24日)

○異常時を想定した実地訓練



○車両故障対処訓練



(2) 乗務員訓練

① 現車講習

現車において、車両故障時の応急処置訓練などを行なっています。

② 机上講習

机上講習では、乗務員としての知識の維持、向上を図っています。

(3) 作業前 KYT の実践

沿線作業前には、作業における危険のポイントを洗い出し、対策を立て全員で確認し合います。

(4) リスクアセスメント委員会鉄道部分科の取り組み

鉄道の重大事故につながるような事象に特化し、リスクアセスメントに取り組んでいる「リスクアセスメント委員会鉄道部分科」では、運転業務に従事する社員とともに、以下の取り組みを行いました。

① 重大リスクへの対応

想定される重大な事象に至るリスクを抽出し、既存対策の有効性の確認やソフト対策の実施状況の確認を行い、重大リスクの管理と抑え込みに努めています。

② 守りにくいルール・規程の改正

守りにくいルールや解釈を誤る可能性がある規程等を抽出し、検討・議論しながら社員に納得感のある、理解しやすく守りやすいルール・規程への改正に取り組んでいます。

(5) J R 西日本からの工務関係技術支援

認定事業者である JR 西日本より、施設・電気関係についての技術指導及び当社設備の巡回を行っていただき、技術力の向上及び設備の維持管理状態の確認を3か月に一度のペースで実施しています。

(6) 車内への抗ウイルス・抗菌加工

お客様に安心してトロッコ列車の旅を楽しんで頂くため、トロッコ車内への「抗ウイルス・抗菌加工」を実施しています。

VI. 今後の安全確保に向けた取組み

【2025年に向けた到達目標】

- お客様に死傷を及ぼす運転関係事故 . . . 「0」
- 重大労災（死亡及び後遺症が残る労災） . . . 「0」
- 列車の駅間長時間停車（概ね1時間） . . . 「0」

が継続できる体制であると言える状態

【2022年度 目標到達レベル】

1. 組織の安全管理の充実

- 嵯峨野観光鉄道のリスクに対する対策が策定されている状態
- さらに、残留リスクに対してソフト対策やルールの見直しが行われ、それらが確実に実施されている状態
- リスクアセスメント鉄道部分科会の活性化により、安全性向上・課題解決の場となっている状態

2. 自分ゴト、みんなゴト化による安全考働の実践

- 社員の報告に対する心理的負担が低下し、あったことが正しく報告されている状態
- プロパー社員主体の経営を前提に、社員がJRとの交流を深めることにより必要な技術力を有し、社内での情報共有により個々人が安全に向けた考働を自ら実践している状態
- 異常時の対応能力向上を目指し、車両応急処置能力向上及びお客様救助の安全かつ迅速化に向け、いつでも対応可能な体制が構築されている状態

3. 安全・事業継続に必要な投資

- 老朽化設備更新や自然災害対策に向けた線路や土木構造物、斜面等の地上設備に必要な設備投資、修繕費を計画的に投入するための計画が策定され、重大なリスクを封じ込めている状態
- 新型車両導入に向けた計画の方向性が決定されている状態

【基本方針】

安全の三本柱である「Ⅰ. 組織で安全を管理する体制の強化」、「Ⅱ. 自分ゴト化、みんなゴト化による安全意識、安全への取り組みの強化」、「Ⅲ. 安全への設備投資、修繕費投入」に対し、前年度の取り組み内容の検証結果から必要な改善内容を盛り込み、更に安全性の向上へ向けた取り組みを継続させていきます。

具体的には、「逆引きリスクアセスメント」で抽出された重大リスクに対する対策の整理・将来計画への反映とその準備、ヒューマンファクターの理解に基づく報告文化の醸成、老朽化設備の中長期的な修繕計画の策定と工事の実施など、2025年度の到達目標に向けた取り組みを組織全体で実施していきます。

【重点実施項目】（2022年度 目標到達レベルに向けた具体的取り組み事項）

I. 組織で安全を管理する体制の強化

1. リスクアセスメントの充実

- (1) リスクアセスメント委員会鉄道分科のさらなる充実
 - ① 社員から報告される日常発生するリスクへの適時な対応
 - ② ヒヤリハット事象の議論と検討
 - ③ 逆引きリスクアセスメントにより明らかとなったリスクに対する計画的な対応と管理
 - ④ 計画リスクアセスメントの実施
 - ⑤ 守りづらいルール抽出及び見直し、さらに安全度を高めるための改訂
- (2) ヒヤリハット・安全報告の掘り起こし
 - ① 社員からの迅速かつ正しい報告
 - ② 管理側による迅速かつ正しい対応
 - ③ 事象に対する適切な情報収集と分析
 - ④ 正しい情報と分析に基づく議論
- (3) 社員が主体的に関与し、施策を実行していく機会の設定と、それをサポートする仕組みの充実
 - ① 課題解決チームの設置とサポート
- (4) 「鉄道の安全の実現に欠かせない8つの視点」を念頭においた安全マネジメントの実践
 - ① マネジメント層による安全計画策定及び計画実施後の確認、検証
 - ② 一般社員への伝承と継承

II. 「自分ゴト」、「みんなゴト」化による安全意識、安全への取り組みの強化

1. 「自分ゴト」化

- (1) 安全報告・ヒヤリハットの正しい報告
 - ① ヒューマンファクターの理解に基づく報告意義の浸透と社員への働きかけ
 - ② RA 鉄道部分科、乗務員訓練、駅勉強会等における JR での報告事例紹介と議論

- (2) JRとの技術交流
 - ① 技術支援（保線、土木、建築、電気）
 - ② 検査立会（車両）
 - ③ 新たな乗務員訓練手法（シミュレーター等）の導入（運輸）

2. 「みんなゴト」化

- (1) 報告されたヒヤリハットの活用
 - ① なんでも言い合え、報告できる文化の醸成
- (2) JRとの技術交流で得た材料の活用
- (3) 「ほめる」を通じた価値観の共有化（視点3・8）
 - ① 「ほめる」べき事象の積極的抽出及び鉄道部長表彰等見える化の推進
 - ② グッドジョブカードの更なる浸透

3. 事故・労働災害防止と異常時対応能力の向上

- (1) 事故・労働災害
 - ① 定められたルールの確実な遵守
 - ② 「安全が確認できないときは、迷わず列車（作業）を止める」の実践
 - ③ 作業計画段階におけるリスクアセスメント、作業前KYT、打合せの徹底
- (2) 異常時対応能力の向上
 - ① 異常時訓練、お客様救護訓練等の継続実
 - ② 他社事例や自社想定事例によるシミュレーション訓練の実施

III. 安全への設備投資・修繕費投入

1. 設備老朽化対策とリスクへの備え

- (1) 落石・倒木対策
 - ① 落石発生箇所における安全対策
 - ② 部外有識者との斜面防災に関する検討
 - ③ 沿線樹木管理PTによる倒木対策
- (2) 線路及び構造物の強化等体質改善
 - ① PCマクラギ（1/3）化の強化
 - ② 土木構造物等長期修繕計画に基づく工事の実施
- (3) その他リスクへの対応
 - ① 逆引きリスクアセスメントにより明らかとなった重大リスクへの対処

2. 車両老朽化対策

- (1) 車両故障による運休、駅間停車の防止
 - ① 運転士との連携による車両状態の早期把握に基づく予兆管理
 - ② 梅小路運転区との連携
 - ③ JR近統車両課主催の品質会議への参加
- (2) 車両更新（新車導入）計画の検討
 - ① 新車導入に向けての方向性の再検討

Ⅶ. お客様へのお願い

1. 列車のホーム入駅時における安全の確保について

ホームでは、黄色い点字ブロックの内側でお待ちください。写真撮影される場合は、周りのお客様に十分ご注意ください、列車に近づかないようお願いいたします。また、自撮棒を使用している撮影は大変危険ですので絶対にお止めください。

2. 共助の取り組みについて

私どもは、お体の不自由なお客様やお困りのお客様に積極的に「お声かけ」をしております。お手伝いが必要なお客様がいらっしゃいましたら、皆様も一声、お声かけをお願いします。

3. スマートフォン等のご使用について

駅構内やホーム、車内でのスマートフォン等の「ながら歩き」は、他のお客様や列車との接触、線路への転落などの恐れがあり、大変危険ですのでお止めください。

特に、駅構内におけるスマートフォンの位置情報を活用したゲームアプリ等のご利用は、お控えいただきますようお願い致します。

4. 列車乗降時の安全確保について

車両とホームとの間に段差や隙間がありますので、乗降の際はお足元にご注意ください。特に小さなお子様をお連れのお客様は、十分にご注意ください。

また、ベビーカーにお子様を乗せたままの乗降は大変危険です。お子様を抱いていただき、乗降していただきますようお願いいたします。

5. 車内へ持ち込めない危険物について

以下の危険物については、車内への持ち込みをお断りしています。

- (1) 可燃性液体……ガソリン、灯油、軽油 など
- (2) 高圧ガス ……プロパンガス、液体窒素 など
- (3) 火薬類………弾薬、ダイナマイト など
- (4) 毒物・農薬………クロロホルム、除草剤 など
- (5) 他のお客様に危害を及ぼすおそれのあるもの、車両を破損するおそれのあるもの

6. 列車の走行中、窓から手や顔を出さないでください

列車は、保津川溪谷に沿って走行しており、沿線の樹木が車両に接近しているところがございます。お怪我の原因となりますので、決して窓から手や顔を出さないでください。

7. 感染症予防についてのお願い

- (1) ご乗車の際は、マスクの着用をお願いします。(幼児は除く)
- (2) こまめな手洗い・手指消毒をお願いします。
- (3) 施設内では密集しないよう、周囲との間隔をあけてください。
- (4) 大声での会話はお控えください。
- (5) 体調の優れないお客様は、ご乗車をお控えください。
- (6) 車内では窓をお開けいただき、車内換気にご協力ください。
- (7) 熱中症予防対策としての水分補給を除き、車内でのご飲食はお控えください。

VIII. 安全報告書等に対するご意見について

安全報告書の内容や安全の取組みに対するご意見・ご質問等は、下記までご連絡ください。

担当部署	嵯峨野観光鉄道株式会社 鉄道部
住 所	〒616-8373 京都市右京区嵯峨天竜寺車道町
電 話	075-871-3997
F A X	075-861-2899
メール	torokko@sagano-kanko.co.jp